

上巻下二十九口ノ總會ニ於テ辭職社會ノ要望  
セル重役ノ交差ヲ見タルカ本件ニ伴フ神ノ及  
店勤務海陸函社會ノ勤靜左ノ如シ  
一 陸貧例

同文會首悞者ノ言ヲ綜合スルニ今回専務  
取締役ノ當選シタル元倫教長長谷登  
ハ不偏不黨ニシテ人格手腕識見共ニ卓裁  
シ居レルヲ以テ陸貧例ハ譽テ之ヲ觀望セ  
ル所ナリ又常務取締役ニ當選シタル家永  
敏之磨ハ純陸貧ニシテ職制復旧ノ前提トモ  
見ルルヲ以テ要部ノ發部ヲ貫徹シタル  
モノト謂フ天邊言ニアラスト云遺憾ナルハ同文  
會ノ最高幹部タル重役松本市太郎

ノ接選ヲ見タルコトナル又一方海貧例ヨリ見ル  
代ハ悔負ノ常拜禁スル他ハ甘ん専務安田  
柘ノ隱退ヲ見タルコトヲ喧嘩函成敗トシテ  
詢ニ已ムヲ得サルコトヲ謂ハサル一カラス少壯急  
進布子中ニハ發令不平ヲ漏レ居ル者アルニ  
吾人ハ徒ニ糾糾ヲ事トスル者ニアラサルヲ以テ  
少壯派ハ十分諷服シテ當分其ノ成行ヲ  
觀望スルヲ宜ナリト稱シ社内ハ一板ノ勢ノ  
穩ニ歸シタルニ如シ

一 海貧例

今回取締役互選ノ結果安田専務ハ平取  
席役トナリ武田良太郎常務兼任ヲ見タル  
カ元來陸貧例ハ海主陸從主義ナリト稱